



fdapadaum baand nadafdar dagaadar dafb aadarb sand dafdasdar
フダパダウム(花名)は帯状になり、豊かで無い土地や隅の土地では、
競い合い幾らか残る。土は豊かなものを混ぜて土地とする。

bfdand fadar daqand nadafaab bfdasb nadaqand bada bfind
新しいもの(土)は悪く遠い所で出来た不十分な古いものを使う。
生育が悪いのは決まって新しいものである。

nada bab nadaqand fadaumsb qadar daqb sb
小さく無い桶では成り立たない。
良い家の手入れは湿地を占有して手入れする。

paadafaab sand gadaum sar aadaum sand bs
風通しの十分な土の庭では、蕾が所有地の土を決める(引き締める)。

bqb nadaqaab nadafaadar aaqdaum dafdaumb
育つと暗くなくなり、不十分な土地でも、
若い家(固まり)は湿っぽく変化する。

badar badata nadaqaab nadafdazidasb saadaum sand
成長すると何か月か自立せず、豊かで無い様に成長し、
幾らかの家(固まり)は土である。

kadar aatb qdar nadaqdar sand
完全に加えると自然に暗くない土地の土になる。

qdand aadardasb nadaqand badarb dafaum badar batdar sar
少し悪いのは空地で成長した未成熟の周囲が悪いものである。
豊かな芽は行くと(成長すると)豊かな土地では蕾になる。

bqaadasb nadafaab bqand aab nadafdar sb dafaadaum daumsand
後からの成長は不十分で、新しいだけである。
豊かで無い土地の国では、十分な家の家の土を使う。

nadafda daqaadaaadar saadar aab bab sand baatb qdaum sanr
湿っていない暗い空き地の幾らかの土地は全て桶の土となり、
枠組み(桶)は小屋で日光に当てる。

daqaadar sand qab said sand
専用地の土は振るった、古い土をつかう。

10年ほど前に以上の様に訳しました。この訳には誤りが沢山ありますが、
そのままにしています。その後、次の様に訳しました。

fdapadaum baand nadafdar dagaadar dafb aadarb sand dafdasdar
豊かで大きな家は連帯して、豊かでない農地を隅の農地とした。
争いで幾らか残ったが、国土は豊かな出入りの農地になった。

bfdand fadar daqand nadafaab bfdasb nadaqand bada bfang
古くて悪く辛い農地が成立し、永くはないがブフダ国は奴連合で、約束は確実だった。

nada bab nadaqand fadaumsb qadar daqb sb
小さく無い領土に自助が無く、フアダウム国は水の農地を支配した国だった。

paadafaab sand gadaum sar aadaum sand bs
交易が長期の国土は、外の家がボスが幾らかの家を決定した。

bqb nadaqaab nadafaadar aaqdaum dafdaumb
育った無自立心は長期ではない農地を活発な家として豊かな家と人にした。

badar badata nadaqaab nadafdazidasb saadaum sand
農地毎に家毎に自立的で無く、ナダフダジダ国は様々な家の国土だった。

kadar aatb qdar nadaqdar sand
後に農地に人が増えて狭い農地は自立の無い農地の国土となった。

qdand aadardasb nadaqand badarb dafaum badar batdar sar
少し悪いアアダラダ国は奴連合の傍に置かれて、豊かな希望があった。
農地毎だが多くの農地にボスがいた。

bqaadasb nadafaab bqand aab nadafdar sb dafaadaum daumsand
ブクアアダ国は長期ではなく古いままが全てだった。
ナダフダアラ国は長期に次々と家ができる国土だった。

nadafda daqaadaaadar saadar aab bab sand baatb qdaum sanr
湿り気が無く暗く支配の農地は様々な農地だった。
全ての領土が国土であり、纏めた国の小さい家の太陽だった。

daqaadar sand qab said sand
自立的な農地の国土に地震があり、長老の国土となった。

上記の二つの訳文はどちらが正解に近いのか、全く解からなくなりました。
原書の筆者もその事を考えていたのでしょうか。あるいはまた別の訳があるのか。